



総研大ニューズレター

第 71 号 2014. 4 発行

●目次

【今月のトピックス】

- | | |
|---------------------------------------|--------------|
| 「平成 25 年度春季学位記授与式開催 | 総務課 |
| 「遺伝学専攻 体験入学（春期コース）及び研究所見学会を開催 | 遺伝学専攻 |
| 「第 10 回大学院教育研究会開催 | 学融合推進センター |
| 「高エネルギー加速器科学研究科平成 26 年度大学院説明会開催 | 高エネルギー加速器研究科 |
| 「平成 25 年度総研大学術交流会開催 | 学融合推進センター |
| 「第 19 回（平成 25 年度）長倉研究奨励賞研究発表会及び授与式を開催 | 学務課 |
| 「総研大学術情報基盤フォーラム Si2014 開催 | 情報基盤センター |

【各種募集】

【イベント情報】

主なイベント予定

- | | |
|---------------|---------------------------|
| 4 月 7 日 | 入学式・学長賞授与式 |
| 4 月 7 日～8 日 | 総合教育科目「平成 26 年度前学期学生セミナー」 |
| 4 月 8 日～10 日 | 総合教育科目「総研大フレッシュマンコース」 |
| 4 月 10 日～16 日 | 総合教育科目「ミクロ・マクロ生物学Ⅰ」 |
| 4 月 17 日～18 日 | 総合教育科目「科学・技術と社会Ⅰ」 |
| 4 月 21 日～24 日 | 総合教育科目「ミクロ・マクロ生物学Ⅱ」 |

【今月のトピックス】

● 平成 25 年度春季学位記授与式開催



3月20日（木）に葉山キャンパス2階講堂において、平成25年度春季学位記授与式が行われました。（修了生は、課程博士54名、論文博士4名、修士課程7名。今回含め、これまでの修了生は、課程博士1698名、論文博士231名。）

式典に先立ち、奥田暁仁さんによるピアノ演奏が行われました。

式典は、開式の挨拶の後、修了生一人一人に、高畑学長より直接学位記が手渡され、修了生は何年にも及ぶ大学院生活の締めくくりとして、感慨もひとしおのようでした。

その後、学長より式辞があり、出席者は真剣な面持ちで聞き入っていました。

最後に、修了生代表として機能分子科学専攻の望月建爾さんより謝辞が述べられ、閉式となりました。



学長から証書を受け取る修了生

喜びを分かち合う宇宙科学専攻修了生

【文責 総務課】

● 遺伝学専攻 体験入学（春期コース）及び研究所見学会を開催

遺伝学専攻では、3月2日（日）～3月8日（土）に体験入学（春期コース）を実施しました。今回の体験入学には12名が参加しています。それぞれ興味のある分野の研究室に配属となり、各種機器を用いた実験や、研究室の教員、ポスドクによる個別の指導を体験されました。体験入学終了後、体験入学生はレポートの提出も行い、教員からレポートに関するコメントが提供されています。

また、3月5日（水）には研究所見学会も開催し、体験入学生の他に遺伝学専攻に興味のある学生10名が参加されました。専攻長による挨拶の後、各研究室のパネル展示見学を実施しました。パネル展示見学では教員や総研大生に対して、研究内容から普段の生活のことまで幅広く質疑応答が行われていました。パネル展示見学の後、実際に研究室の見学も行いました。アンケートでは、「様々な研究室の話を聞くことが出来たため、進路の参考になった。」といった声が寄せられています。



専攻長による挨拶



パネル展示見学風景

【文責 遺伝学専攻】

● 第10回大学院教育研究会「研究と生活の調和を目指して～ワタクシ的なことと研究のこと～」開催

＜日程＞2014年(平成26年)3月3日(月)

第10回大学院教育研究会、「研究と生活の調和を目指して～ワタクシ的なことと研究のこと～」が、葉山キャンパスで開催されました。本研究会は、大学院生が研究を続けていくうえで対面するであろう、生活と仕事の調和（ワークライフバランス）について、講演とディスカッションを通して本課題について考えるために設けられました。

現在、研究と子育てを両立されている、助教、ポスドク、大学院生と立場の違う三名の方を講師にお招きし、その暮らしぶりや両立の工夫などをお伺いしました。

ご夫婦ともに基礎生物学専攻で学位取得を目指す篠塚琢磨（基礎生物学専攻 D4）さんは、「学生で子供を産むという選択」という題目で大学院生活と子育ての両立を話していただきました。完全な夫婦分業で、朝スケジュール、夜スケジュールをうまく組み合わせながら子育てと研究を両立していく篠塚家。限られた時間だからこそ、効率的に研究ができている、と学生結婚は意外にも研究の足かせにはなっていないようです。

基礎生物学研究所で広報担当の特認助教として活躍されている倉田智子（基礎生物学専攻 助教）先生は、「育児をしながら働くというのは岡崎キャンパスでは普通です」という題目で、仕事にブランクを設けない出産、復帰の仕方を伝授。うまく研究所の子育て支援を活用しながら、業務と育児の両立をパワフルに語っていただきました。

最後に、「男性研究者の育休日記」という題目で、葉山でポスドクをされている伊藤洋（先導科学研究科 学術振興会特別研究員：RPD）さんが男性研究者の子育てと研究の両立を話してくれました。子どもを育てることと研究と、どちらも手を抜きたくない、という熱い思いで、半年間しっかり子どもと向き合った育休体験を語ってくれました。

ランチディスカッションでは、学生、教員集まって、それぞれの立場からライフワークバランスについて語り合いました。学生にとっては、結婚、育児はまだまだ遠いことかもしれません。しかし、研究と私生活を両立した先に、充実した人生が待っているのではないのでしょうか。そして、それは決して難しいことではないということを、経験者は明るく語っていただきました。

● 高エネルギー加速器科学研究科平成 26 年度大学院説明会開催

高エネルギー加速器科学研究科では、3 月 8 日（土）に東京・日本教育会館において、平成 26 年度大学院説明会を開催しました。当日は風が強かったものの、春の訪れを感じられるような暖かい日差しの降りそそぐ中、関東近辺の大学を中心に 18 名の参加がありました。

説明会前半は、岩崎博行研究科長による挨拶及び研究科の紹介に続き、加速器科学専攻、物質構造科学専攻、素粒子原子核専攻から各 2 名の担当教員による専攻の案内・研究内容等についての説明を行いました。

説明会後半では、各専攻にわかれて質疑応答を行い、参加者は希望する専攻の担当教員から、詳細な研究内容を熱心に聞き、入学後の研究環境や生活環境などについて積極的に質問していました。

説明会終了時には、研究施設見学や様々な研究グループのポスター説明が行われる 7 月のオープンキャンパスへの参加を希望する参加者もあり、総研大進学への関心の高さが感じられました。

当研究科では、平成 25 年 6 月に東京で大学院説明会を、7 月に高エネルギー加速器研究機構つくばキャンパスでオープンキャンパスをそれぞれ開催しており、今回、初めての試みとして 3 月に開催しましたが、予想を上回る参加人数となり、大変盛況な説明会となりました。



【文責 高エネルギー加速器科学研究科】

● 平成 25 年度総研大学術交流会開催

平成 26 年 3 月 19 日と 20 日の両日にわたり、平成 25 年度学術交流会が葉山キャンパスで開催されました。今年度は、第 1 部「わが研究成果」での第 19 回長倉賞受賞候補者発表会（オーラルプレゼンテーションとポスタープレゼンテーション）、第 2 部「フォーラム／エキジビション」、第 3 部では第 1 回長倉賞受賞者による「長倉賞受賞者の研究最前線」、そして学位授与式後の第 4 部「新修了生への餞レクチャー」というプログラム構成となりました。

第 1 部では、5 名の長倉賞候補者の修了生が学位研究の成果を講演しました。聴衆は審査委員を

含めて、40 名弱でした。講演後の質疑応答も盛んに行われ、長倉賞の候補者となった修了生は、「広い視野」で自分の研究の位置づけを捉えているのが、よく伝わってきました。引き続き、場所をセミナー室に移して、ポスターセッションが行われました。選考委員との熱心なやり取りが、活発に行われていました。第 1 日目はこの後に、意見交換会が開催され、修了生だけでなく、在校生の参加、20 日に開催される総研大情報基盤フォーラムへの参加者も加わり、にぎやかな意見交換会となりました。

翌 20 日には、午前中に第 2 部と第 3 部が開催されました。第 2 部の「フォーラム／エキジビション」では、科学映像や Soken-Anet が紹介されたり、教員による論文や著書等の展示もありました。第 3 部は、修了生招聘セミナーで、第 1 回長倉賞を受賞した二人の修了生を招聘しました。一人目は奈良女子大の鈴木則子教授で「江戸時代の産科手術（回生術）の光景」と題して講演いただきました。江戸時代の産科医療の歴史とそれに伴う江戸時代の人々の産科医療に関する概念の変遷等が紹介されました。二人目は長浜バイオ大学の客員教授の木下哲先生に「植物におけるオス・メスゲノムのせめぎあい」と題して講演いただきました。オスとメスのゲノムの次世代への貢献の仕方の差異についての講演であったが、講演冒頭では、自身のこれまでの研究者人生についても語っていただけました。

昼食を挟んで、学位授与式が執り行われ、50 名余の修了生が学位記を授与されました。学位授与式に引き続き、学術交流会第 4 部が開催されました。講師は、自然科学研究機構長の佐藤勝彦先生で「宇宙の創生と新たに生じた謎」と題して講演をいただきました。宇宙の始まりが非常に短い時間のなかでおきた“インフレーション”とよばれるエネルギーの拡散であること等について、講演いただきました。

その後、記念写真を撮影し、懇親会へと移動しました。懇親会では、新修了生一人一人に総研大の思い出等を短く語ってもらう機会が設けられました。3 年乃至 5 年の有意義な学生生活を送ったであろうことが想像できるスピーチでありました。それと同時に、多くの学生から、総研大で「異なる分野」「広い視野」等について学べた事について、良い経験だった等の感想を聞くことができたのは、嬉しかったです。

【文責 学融合推進センター 教授 颯田葉子】

● 第 19 回(平成 25 年度)長倉研究奨励賞研究発表会及び授与式を開催

平成 26 年 3 月 19 日(水)に開催された学術交流会のプログラム(第 1 部)として、第 19 回長倉研究奨励賞の最終候補者 5 名による研究発表が行われました。翌 20 日(木)に、長倉研究奨励賞授与式が開催され、機能分子科学専攻の望月建爾さんと、生理科学専攻の大川都史香さんの 2 名に高畑学長から長倉研究奨励賞の賞状及び記念品等が授与されました。

また、研究発表を行った最終候補者の 5 名には、長倉研究奨励賞授与式にて、高畑学長から総合研究大学院大学研

究賞の賞状と、本学の初代学長である長倉三郎先生の著書「複眼的思考ノススメ」が贈られました。

受賞者一覧

○長倉研究奨励賞及び総合研究大学院大学研究賞

望月 建爾 物理科学研究科機能分子科学専攻

研究テーマ「氷の融解ダイナミクスに関する理論研究」

大川 都史香 生命科学研究科生理科学専攻

研究テーマ「シナプス蛋白質を標的とする自己抗体の網羅的解析～辺縁系脳炎における LGI1 自己抗体の作用機序の解明～」

○総合研究大学院大学研究賞

KUGAMOORTHY GAJANANAN 複合科学研究科情報学専攻

研究テーマ「シナリオマークアップ言語と多人数参加型の 3 次元仮想環境に基づく運転行動の対照実験を可能にする実験空間」

中畑 義久 生命科学研究科生理科学専攻

研究テーマ「シナプス後膜におけるグリシン受容体の活性化依存的空間ダイナミクス」

MPOLYA, EMMANUEL ABRAHAM 先導科学研究科生命共生体進化学専攻

研究テーマ「都市―農村をつなぐ星状ネットワークにおけるマラリア疫学動態」

大川都史香さん発表

【文責 学務課】

● 総研大学術情報基盤フォーラム Si2014 開催

平成 26 年 3 月 20 日葉山本部において「総研大学術情報基盤フォーラム Si2014」を開催しました。これは平成 24 年 7 月の「総研大学術情報基盤フォーラム Si2012」に次いで第二回目の開催です。今回のフォーラムのプログラムは、長野副学長（情報基盤センター運営委員会委員長）による開催の挨拶、情報基盤センター長による本フォーラムの主旨の説明、高エネルギー加速器研究機構：真鍋

篤准教授による講演（「情報セキュリティポリシーの異なるネットワークを結ぶーJ-PARK 高エネルギー加速器研究機構と日本原子力研究開発機構での事例ー」）、ディスカッションです。

現在、総研大では平成 25 年度大学教育研究基盤強化促進費として提案していた「総研大教育研究基盤・学内連係強化促進のためのバーチャルキャンパス整備」が採択されたことを踏まえ、バーチャルクラスルームの実現及び教育研究基盤の構築、強化、高度化を進めています。ただ、総研大でバーチャルキャンパスを具体化するには、個々の組織・法人を越えたネットワークの構築や、各規程の整備、教育以外の業務の連携等、様々な解決すべき点が多く存在します。その実現にあたり、どのような問題が存在するか、そしてどのように解決するか、これらについて理解を深めるために、今回のフォーラムでは、実際に異なる組織が連携している J-PARK での運用例について学びました。次にこれらの内容を踏まえ、昼食時間をはさみながら参加者全員で総研大バーチャルクラスルーム・キャンパス構築に向けてディスカッションを行いました。同時開催している学術交流会に参加される先生方もおり人数に増減はあったものの全体として 10 専攻からの 15～20 名の参加があり、多くの有意義な意見が交わされました。参加者から頂いた貴重な意見は今後の総研大バーチャルキャンパスの実現に有効に反映したいと考えています。また今回のフォーラムに先だって、情報基盤センターの洞田講師より、平成 25 年度に構築された総研大多点高臨場感 TV 講義システムのデモンストレーションを行いました。こちらについても多くの意見がよせられましたが、「学内に広く使われるような良いものを早く完成することが大切である。」という言葉が最後にありました。我々としても、これらの励ましの言葉に応えられるよう、今後も一層の努力をしていく所存であります。

最後になりますが、年度末の多忙な時期に貴重な時間を割いて参加して頂いた先生方、また歴史的な背景を踏まえ潜在する問題点を非常に分かり易く説明して頂いた真鍋篤准教授に厚く御礼を申し上げたいと思います。

【文責 情報基盤センター長 大田竜也】

【教員・学生の受賞情報等】

○生命科学研究科 遺伝学専攻 神澤秀明 学生
「森島奨励賞」受賞

○高エネルギー加速器科学研究科 加速器科学専攻 原田健太郎 准教授
平成 25 年度の高エネルギー加速器科学研究奨励会 「西川賞」受賞

○複合科学研究科 情報学専攻 北本朝展 准教授
Linked Open Data チャレンジ Japan 2013 において「基盤技術部門最優秀賞」受賞

○複合科学研究科 統計科学専攻 金川元信 学生
第 8 回日本統計学会春季集会において「優秀発表賞」受賞

【編集後記】



総研大ニューズレター71号をお届けします。

3月20日の学位記授与式では、出席された修了生の皆さん一人一人に学長から学位記が授与されました。様々な分野へ羽ばたく修了生の方は、期待や夢を持って邁進されていくものと思われます。

また、総研大葉山キャンパスでは、3月25日に高畑学長および池内理事による記念講演が行われました。研究者・科学者、また大学役員としての一面からの総研大との関わり方などを語って頂き、大変盛況な講演となりました。

今後のご活躍を教職員一同祈念しております。



広報室 T.W

◎各専攻で教員や学生がメディアに出演が決まっている場合や、受賞や表彰等があった際にはご連絡ください。またメディア等に出演される場合は、可能な限り「総合研究大学院大学」と表記していただけますようご協力お願いします。

発行 2014年4月7日
編集



国立大学法人
総合研究大学院大学
THE GRADUATE UNIVERSITY FOR ADVANCED STUDIES

広報委員会

神奈川県三浦郡葉山町（湘南国際村）
広報室（担当）

TEL046-858-1500/FAX046-858-1542

©2014 SOKENDAI